

## 会 議 録

会議の名称	令和3年度第1回飯塚市健康づくり・食育推進協議会
開催日時	令和4年1月4日(火)
開催場所	書面開催
出席委員	松岡委員、山口委員、塚本委員、砂田委員、宮嶋委員、佐々木委員、 山下委員、河邊委員、古野委員、河島委員、樋口委員、高城委員、 白神委員、古藤委員、大村委員
欠席委員	なし
事務局職員	(飯塚市健幸保健課) 瓜生 敦之、太田 美陽、森 敦子、山下 貴寛
会議内容	1. 議事 (1) 飯塚市健康づくり計画進捗状況報告 (2) 飯塚市自殺対策計画進捗状況報告
会議資料	資料1: 飯塚市健康づくり計画指標一覧 資料2: 飯塚市健康づくり計画進捗確認シート 資料3: 飯塚市自殺対策計画指標一覧 資料4: 飯塚市自殺対策計画進捗確認シート
公開・非公開 の別	1 公開          2 一部公開          3 非公開 (傍聴者0人)
その他	委員から寄せられた質疑、および質疑に対する回答については別紙のとおり。

## 委員から寄せられたご意見・ご質問に対する回答

議題 1. 飯塚市健康づくり計画進捗状況報告	
ご意見等	回答
<p>「歯・口の健康」に関してですが、乳幼児期に関する検討のみで、学齢期が全く抜けています。この部分は教育委員会の管轄になると思われませんが、生涯を通じた健康作りという視点から是非ともこの時期の学校検診のデータを分析活用すべきと考えますが協働は不可能でしょうか？</p>	<p>福岡県学校歯科医会（以下、「県学歯」という）が実施した統計結果を学校に配付し、その結果を元に、むし歯未処置のある者の率を前年度より減少させることを指標に掲げます。</p> <p>そのために、全学校の学級活動において、むし歯や歯周病に対する知識を深める予防対策（歯の模型を使った歯磨き指導・小学校高学年における保健の授業等）を引き続き実施していきます。</p> <p>また、学校が検診結果を県学歯へ提出することは任意であり、現状では全学校からの回答が得られていないため、全学校に検診結果を提出してもらい、より正確な統計結果を取得できるようにいたします。</p>

議題 2. 飯塚市自殺対策計画進捗状況報告	
ご意見等	回答
<p>重複多受診者の指導の方法ですが、国保連への委託としてもこの様な数、回数ではないと思われます。どの様な手順で行っているか、又見つけているかは分かりませんが、随分納得いかない数です。お薬手帳の活用を中心に本人の訪問よりも病院や医院、薬局などと連携して行っていくべきだと感じます。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1人の患者さんが同じ薬を5件から（病院・医院）もらっている。</li> <li>・ 成分が同じだが名前が違うので気付いて</li> </ul>	<p>訪問指導につきましては、医師会及び薬剤師会にも周知を行い、原則 60～74 歳で次のいずれかに該当し、承諾を得られた方に実施しております。ただし、癌患者及び精神疾患の患者及び透析患者を除きます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同一月内に同一の診療科に多数回（原則 15 回以上）の外来受診があるもの</li> <li>・ 同一月内に同一の疾病で重複（原則 3 医療機関以上）の外来受診があるもの</li> <li>・ 同一月内に異なる医療機関にて同一の薬剤の処方を受けているもの（重複服薬者）</li> </ul>

<p>いない。</p> <p>・お薬手帳は持っているが出していない為、ドクターも薬剤師も気づかない。又は、持っ ていてもそれぞれの病院で手帳を分けて いる。</p> <p>など、私が気が付いた点です。改善を希望 します。</p>	<p>・同一月内に処方日数の多い薬剤の処方を受けているもの（多剤投与者）</p> <p>令和 2 年 3 月 31 日時点の具体的な人数で いうと、下記のとおりとなります。</p> <p>国民健康保険加入者数（60～74 歳 R2.3.31 時点） 14,589 人 上記条件に基づいた訪問健康相談対象者数 135 人（うち相談実施数 47 人）</p> <p>お薬手帳の活用方法や正しい使い方の啓発 活動をより充実させ、改善に努めてまいり ます。</p>
<p>児童生徒の SOS の件数が 2021 年度は 2,049 件と急に増加しているのはコロナに よる影響のためでしょうか。スクールワー カーやカウンセラーの相談回数も増加して いるのでしょうか。</p>	<p>スクールカウンセラー、スクールソーシ ヤルワーカーへの相談件数は増加傾向にあり ます。文部科学省は令和 2 年度の不登校生 児童生徒の増加について、新型コロナウイ ルス感染症の影響により、生活環境の変化 により、生活リズムが乱れやすい状況にあ ったことや、学校生活に様々な制限がある 中、登校意欲が湧きにくい状況があったこ とが背景にあるとしています。本市の相談 件数の増加にも、少なからず新型コロナウ イルス感染症の影響はあるかと考えます。</p> <p>スクールカウンセラー、スクールソーシ ヤルワーカーの活用について学校では、気 軽に相談できる人間関係の構築と、カウ ンセリングの有効性を保護者、児童生徒に説 明し、相談者にとって壁を低くすること にも努めています。スクールカウンセラーの 申し込みがない場合でも、児童生徒、保護 者とも話を進めながら必要に応じスクール カウンセラーの活用を行っていくようにし</p>

ています。その結果、相談件数の増加へとつながっていると考えます。また、スクールソーシャルワーカーの人数を1名増員したこともあり、多くの相談に対応できるようになったことも相談件数の増加につながっています。